

8月
2025年

167号

地域共創・未来共創の大学へ

広 報



沖縄大学
OKINAWA UNIVERSITY

発行

沖縄大学入試広報室
〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555
☎ 098(832)5557
<http://www.okinawa-u.ac.jp>

艶やかな紅型 作品が完成

経法商学科3年の赤嶺耕平さんが母校の南風原高校で後輩たちと紅型の帯やタペストリー制作に取り組み、このほど2本の帯が完成しました。

今年1月からはじまった制作活動は、赤嶺さんと経法商学科3年の糸数昌瑛さんがチャレンジ沖大生企画（紅型プロジェクト）として南風原高校郷土文化コースの生徒たちと協働で取り組み、デザイン案は南風原高校3年生の森島響さんが手掛け、赤嶺さんが型づくりをし、染めの作業を行いました。デザインには、南風原町津嘉山の大綱曳（ひき御願綱（うがんづな）や南風原高校の獅子、南風原町花のストレリチア、ブーゲンビレアが描かれています。





5月27日

ものとひと～戦後80年の折に～

盛口満先生

特別授業 01

こども文化学科盛口満先生は、夜間中学の化学の授業での体験やエピソードを交え、さまざまな角度から戦争を考える授業となりました。

戦時中、夜間中学の生徒さんが体験した、「砂糖」「塩酸」「グルテン」「ソテツ」等、人とののかかわりが戦争の影響をどのように受けたのかで紹介されたほか、元日本兵の横井庄一さんが戦後28年生活していたケーブを先生が見に行った話や、戦時中の日本軍のサバイバル書と米軍のサバイバル書の違いについても話はおよびました。



6月18日

「翁長安子さんの体験」を巡る

フィールドワーク

特別授業 03

翁長安子さんにお話しいただいた首里戦線を振り返りながら、翁長さんが逃げたであろう道を実際に参加者が歩く、フィールドワークを行いました。

首里にある安国寺(永岡隊慰霊碑)をスタートし、一中健児の塔や資料室を見学、金城町の石畳、金城橋までの道のりを歩きました。吉川先生の説明を伺いながら、約2時間かけて、80年前に思いをはせながらそれぞれが歩きました。フィールドワークの最後では、参加者ひとりひとりが、翁長さんの戦争体験やフィールドワークで感じたことを話す時間も持つことができました。

「沖縄戦で失われた琉球史料を求めてin台湾」

特別授業 04

前田舟子先生

沖縄戦で多くの史料が失われましたが、戦後の国立台湾大学では、日本人教員が収集した貴重な資料の整理がすすみ、データ化されていることなどを経法商学科教授の前田舟子先生に紹介いただきました。また戦前の台湾における琉球史研究について、国立台湾大学の役割、また研究者にスポットをあて講義いただき、琉球に関する論文を多く残している「陳大端」や「曹永和」の功績も取り上げられました。

特別授業

戦後80年
沖縄大学から平和を願う

沖縄大学では戦後80年の節目に、沖縄戦を改めて学び、平和について考える特別授業を全4回開催しました。

「沖縄戦について学び、その継承について同世代の学生たちと考える機会をつくりたい」と国際コミュニケーション学科4年の中塚静樹さんが企画し、先生方に賛同していただき開催できた特別授業には、沖縄大学の学生だけでなく高校生も参加して、それぞれに平和への願いをあらたにする時間となりました。

県外出身の中塚さんは2年前に吉川麻衣子先生の講義を受けて沖縄戦に関心をもち、その後、翁長安子さんやひめゆり学徒隊のかたたちが集まる場所に向かい、翁長さんたちの語りを聞き続けています。



5月28日

戦争体験者

翁長安子さんが語る、沖縄戦



特別授業 02

福祉文化学科吉川麻衣子先生の恩師であり、沖縄戦の語り部として活動している翁長安子さん(95)をお招きして、首里戦線の体験をお話いただきました。

翁長さんは、県立第一高等女学校に通っていた15歳のときに、沖縄戦を体験し、旧日本軍の部隊と行動をとることで看護や炊事を担っていました。80年前の5月末、首里城近くの安国寺に身を寄せていた翁長さんはアメリカ軍の攻撃を受け、背中に傷を負いながら、首里から南部へと逃げさまよったそうです。戦時中に何度も死に直面し、それでも生きることができた命、その命が続くかぎり、戦争のむごさ、平和のありがたさを伝えつづけたいと活動されている翁長さんの姿に、参加した約50人の学生や高校生は、確実になにかを感じとった様子でした。

7月4日





戦後 80 年の節目として行われた イベントに参加して

名嘉 文音さん [経法商学科4年]

私が今回参加したイベントでは、実際に沖縄戦を体験された翁長安子さんから貴重なお話、フィールドワーク、沖縄大学の先生方による授業など、多くの視点から沖縄戦、そして平和について学び、考えることができました。私はこれまでの教育過程で沖縄戦を学ぶことは、命の重さについての勉強だと考えていました。しかし、本イベントでの授業を通して、戦争というものは人の命だけではなく、先人の方達がつないできた伝統、歴史的な資料なども当たり前のように全て無いものとしてしまうものなのだとも認識することができました。また、この沖縄の悲惨な歴史を必ず後世に伝えていかなければならないという一方で、戦争を実際に体験した方達が減っていく今、私たちにできることは一体何があるのかということも同時に考えさせられました。沖縄戦に関する記憶の風化、そして平和に対する無関心さ、体験者ではない人が歴史を歪曲なく伝えていく難しさ、それぞれの人に適した学びなど、沖縄戦を含め、戦争に関する学習は様々な課題が多く残されているということにも気づくことができました。

現代社会を生きる私たちには過去の過ちを繰り返さないためにも、常に学び、継承していく責任があるのではないかと感じ、戦争を過去の悲劇として、ただ単に記憶に留めるのではなく、私たちの今、そして未来に大きく影響するものだと思う考えつづけていきたいです。

そして戦争の悲惨さ、命の重さ、先人たちが守り残してきたものを次の世代へと継承するため、恒久平和への思いを繋げていくことをひとりひとりが心にとめて行動することが重要だと強く思います。

講義を受けた学生の声

翁長さんへ

中野 満天さん [管理栄養学科2年]

5月28日と6月18日では、大変お世話になりました。両日にわたり、貴重な体験を本当にありがとうございました。私は、愛知県出身で今までに沖縄戦について学んだことはなく、どんなことがありどんな思いであったのか何も知らずに生きてきて、沖縄に来て初めて沖縄戦の講義を受講したり、様々な戦争資料館などに足を運んだり、そしてやっと沖縄戦の悲惨さや残酷さを知ることができました。そこで翁長さんによる体験談は、当時の状況や思いがリアルに伝わり、人生においてとても貴重な経験になりました。ありがとうございました。

県外での戦争・平和学習は広島・長崎の原爆に焦点が当てられ、沖縄戦があった事すら学ぶ機会はありませんでした。しかし、今回の翁長さんの話やたくさんの方の資料館で学んだ「沖縄戦」は、県外にいる方々にも伝えていくことも重要だと思いました。そのため、私はせっかく沖縄に来て勉強しているので「沖縄戦」のことについてももっともっと勉強し、県外の人や後世に継承していかなければならないと強く思いました。

翁長さんの話で特に印象に残っていることは、永岡隊の隊長方とはぐれ背中に大きな傷を負い、はいつくばってでも「生きたい」という思いで、水を求めてあの急な坂を15歳、一人で下り南部に逃げたことです。15歳で家族と離れ離れになって、それでも「お国のため」と働く覚悟を持ちつづけた翁長さんはすごいと思いました。いつ殺されるか、いつ裏切られるかも分からず、もう家族に会うこともなく亡くなってしまうかもしれないという恐怖感・不安感を抱きながら「お国のため」と働けるのは本当にすごい覚悟と勇気だと思いました。お父さんに会った時や橋が破壊されていてもうこれ以上逃げられないと思ったときに、ふと普通の15歳の少女になり号泣したというエピソードは、聞いているだけで涙が出ました。また、壕に入るとき那覇港の方向を見たら、特攻隊が撃墜されていくのを見て、初めて日本は負けていると知ったというエピソードも特に印象に残っています。

あのつらい思いをもう思い出したくないという方々もいる中、翁長さんは一生懸命後世の私たちにしっかりと伝えてくださっているの、私たちもしっかりとそれを受け取り、受け止め、考え、後世または沖縄戦を知らない人たちに受け継いでいかなければ、翁長さんの努力も戦争で亡くなってしまった若い命も無駄になってしまうので私たちにできることを精一杯やろうと思います。

必死に生き延びてくださり、思い出したくもない記憶かもしれませんが一生懸命実際に起きたこと・経験したことを、私たち次世代に話継いで下さり、感謝しかありません。本当に貴重な経験をありがとうございました。また、機会があればお話を聞かせていただけると幸いです。末永いご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

経法商学科2年次
高良 優志 さん

富山 侑美 先生

第6回 わたしの先生、 紹介します！

今回は経法商学科富山侑美先生について、ゼミ生の高良優志さん（経法商学科2年）が紹介します。富山先生は刑法を専門とし、インフォームド・コンセント論を研究されています。現在TBSラジオでコメンテーターも務められている先生の魅力に迫ります。

Q1 なぜインフォームド・コンセントに関する研究をしようと思ったのですか？

いい質問ですね。実は、それが知りたくて、今もインフォームド・コンセントの研究をしています（笑）。きっかけは、高校生の時に医師になりたいと思っていて、でも大学受験に失敗して叶わず、特にそれまで興味のなかった法学部にひょんなことから進学して、たまたま3年生のゼミ選択の時に新しく着任された先生の刑法ゼミに入ったら、医療と刑法の融合分野のご研究をされている先生で、そこで、「ああ、医療に関わるのって、医療従事者だけじゃないんだ」と思ったことだと思います。そのめぐり合わせの中で、自分の治療について自分で決めるという自己決定の大切さと難しさ、そこに刑法が関わってき、しかも医療環境の改善という社会に欠かせない問題をどのように理解すればいいのかが、考えれば考えるほど深く…だから、この研究を続けて、研究をする意味を見つけないかと思っています。

Q2 “なにか変化を与えられた”と実感した瞬間はありますか？

今、研究テーマで世の中に世の中に、というほど大きな研究成果ではないですが、自分が書いた論文を読んでくれた人からの反応が、賛同でも批判でも嬉しいんです。もちろん、専門の刑事法学者からの声ですが、他の学

問領域の学者で、哲学や医学、倫理学などの分野の人から連絡をいただき、共同研究に発展したりすると、私のやっている研究も無駄じゃないんだと思います。（きつと、世の中をより良くするのに今後役に立つと信じて…）

Q3 法律を学ぶ魅力はどんなところですか？

法律は、身近なようで遠いし、遠くあつてほしいものです。なぜなら、法律を身近に使う生活って、それだけ解決し難いトラブルの多い生活ということだから…だけど、トラブルの解決手法としてどのようなものがあるのか、学ばなければわからない以上、学んでおいて損はないと思います。また、刑事法について学んでいると、日々流れてくる「事件」のニュースのその先やその前の原因といったことにも目を向けられるようになると思えます。そのような広い視点を持つようになることも、法律を学ぶ魅力の1つだと考えています。

Q4 研究を通して1番嬉しかったことは何ですか？

博士論文を書き終わった瞬間の最後のエンターキーを押したとき！です。提出締切前の約1か月は、寝る時間も惜しんで、ずっと論文を書き続けました。無事大学に提出して、博士（法学）の学位を授与されたとき、これまでやってきたことが1つの形になったのだなと実感しました。

Q5 もし、法律を1つ自由に変えられるとするなら、何を変えますか？

誰かが1人で自由に変えられないような法律に変えます！誰かにとつて恣意的な法律を作ることもあり得ない、と歴史的にはわかってはいるわけですから、これからは生きる私たち国民全員で、日本の法律がどう変わっていくか、注視していきたいですね。

Q6 もし、法律の先生じゃなかったら、何をしていましたか？

大学1年生から塾講師のアルバイトをしていて、子供たちに授業をするのが好きだったので、塾の先生かな？そう考えると、先生ってところは変わらないかも！

Q7 先生のモットーや座右の銘はありますか？

私のモットーは、「なるようになる！」です。何をやるにも、まずは出会いがないといけません。人でも物事でも。私が、今沖縄大学で、皆さんの前で楽しく働いているのも、紆余曲折を経てたくさんひょんな出会いがあつたからです。だから、なるように「なる」んですが、これから先は、また別の出会いへ向けての道のりで、その過程では自分の意思や努力も必要だ、そこに自分の責任があるんだ、ということをお忘れずに！です。

Q8 休みの日はどんなことをして過ごしているのですか？

休みの日はありません！（笑）授業も研究もない時は、家でドラマやアニメ、映画を観たり、小説を読んだりするのが好きですが、つい、この映画、よく司法実務のこと調べてあって、勉強になるなとか、この小説のこの描写が非行少年の心情をよく表現しているから今度授業で使おう！とか考えてしまうんです…というのを考えなくていいので、料理は結構好きです。最近、トマトの冷製パスタをどうやってより美味しく作れるか、実験中です。沖縄と県外とで離れて生活している旦那さんがうちに来た時に感想を聞くのが楽しみです。

Q9 ラジオに出演しているんですか？

本当にこれもひょんなことから、土曜朝に放送されているTBSラジオのニュースのコメンテーターとコラムコーナーを不定期でやらせていただいています。これまで3回担当してきましたが、なかなか難しい…授業で学生のみんなに法的な問題を解説するのは、限られた時間の中で顔の見えないリスナーを想像して話すのでは、緊張度も違います。私にとって新しい挑戦というところで、これから成長していきたいです。ぜひ聞いた人は感想を教えてください！

『CAPIC 刑務所作業製品に学生のアイデアを。沖縄刑務所見学』

富山ゼミでは裁判所や刑務所見学などの巡見を行っています。7月4日には沖縄刑務所への見学に行きました。施設の見学後、刑務官のかたたちと学生とで刑務所作業品の新商品開発についてのディスカッションも行いました。今後商品開発において連携して取り組んでいくことが決まっています。



法律は、トラブル解決のための道具ですが、解決した後にもその人の人生がある。そういう意味で、人の生き様を学ぶための1つの入り口だと思っています。だから、その前後にある社会の背景などに着目できる楽しい学問なので、法律の難しい言葉を勉強するのが苦手だな、と思う人もそうじゃない人も、ぜひ一緒に勉強していきましょう！

Q10 最後に、法律を学ぶ学生に、一言アドバイスをお願いします

わたしの 留学体験記

沖縄大学では単位認定を行っている海外派遣先校へ、短期（夏・春休み）、半期または1年間の留学制度を設けています。アメリカやカナダ、オーストラリア、韓国、中国、台湾、フィリピンなどへ学生を派遣しています。

昨年、3年生後期の半年間、派遣留学生制度を活用してジョージアンカレッジに留学した野原好葉さんに留学の思い出について伺いました。

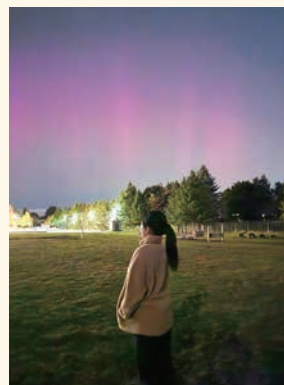


国際コミュニケーション学科
4年次 野原 好葉 さん

わたしは「自分がなにをやりたいか」それを見つけるために、沖縄を飛び出してチャレンジしたいと思っていたので2年生のときにはセブ島で語学留学もしました。英語は得意というわけではなかったのですが、最初の留学では伝えること聞くことが大変ではありました。沖縄に戻ってからは次第に英語がききたくなるようになって、机に向かうというよりは英語のラジオをきいたり、映画をみたりする時間が多くなりました。再度、留学をしたいと思いカナダへの留学を決めました。ジョージアンカレッジは日本人が少ないので英語を学ぶ環境としてはとても良かったと思っています。カナダの魅力である広大な土地や自然の豊かさ、そして人々が明るく距離感もとても良かったので落ち着いた環境で学ぶことができました。勇気を出して留学にチャレンジでき、より自分を高めるきっかけになったかと思います。正直なところ、わたしは沖縄大学への入学は不本意入学でした。しかし、大学の4年間で得られた多くの出会いのおかげで自分が好きなことをみつけることができました。留学制度をうまく活用できたのも沖縄大学だったからだと思います。留学では一生ものの大切なもの、出会いを得ることができました。

卒業後は国際協力、こどもの教育に携わりたいと思っています。そして沖縄に貢献できるようにがんばりたいです。

沖縄大学の在校生のみなさんには、留学に少しでも興味があるならチャレンジしてほしいです、無駄なことはありません。勇気を出して一歩を踏み出してほしいです。



『ジョージアン・カレッジ（カナダ・バリー）：ジョージアンカレッジは、1967年に設立された、カナダで3番目に大きい州立カレッジです。学生数は約12,000名で、その内の約1,000名が留学生です。「自然豊かな環境で質の高い教育を提供する」事をモットーにしており、社会で即戦力になる人材の育成に力を入れ、実践的なカリキュラムと職業体験プログラムが充実しています。カレッジがあるオンタリオ州バリーは、カナダで最も治安が良い都市といわれており、大都市トロントの近くでありながら日本人も少ないので、英語を学ぶのに最適な環境です。』

卒業生の活躍を紹介！

あの人はいま

卒業生の活躍を紹介する「あの人はいま」。今回は県産ラム酒を製造する株式会社グレイス・ラム代表の金城祐子さんを紹介します。金城さんがモデルとなった原田マハさんの小説「風のマジム」が映画化、今年9月に公開されます。映画の魅力もお話いただきました。



金城 祐子さん

1992年3月 沖縄大学短期大学 英語コース卒業
1992年4月 東京のコンピューター関連会社に就職
1995年 財団法人「沖縄県老人クラブ連合会」に就職
1997年 株式会社アステル沖縄に就職
2000年 結婚。(旦那様も沖縄大学卒業です。)
2002年 アステル沖縄の親会社沖縄電力の社内ベンチャー制度に応募
2004年 株式会社グレイス・ラム設立

うどそのころ、友人がバーをオープンして、応援のためによく通っていて、そこでラム酒に出会いました。こんなに風味豊かなお酒があるのかと感動したと同時に、原料がさとうきびだと知り、なぜさとうきびが多く栽培されている沖縄でラム酒が作られていないのかと疑問に思いました。そのタイミングで沖縄電力では社内ベンチャー企画募集をやっていたので、「コレだ!」と思って社内ベンチャーに応募することにしました。前代未聞のプロジェクト、猛勉強してたくさんの壁を乗り越え、起業することができました。

南大東島に縁もゆかりもなかったのですが、最初は受け入れていただくのも大変でした。もう無理だとあきらめようと思ったこともありましたが、夫や家族の支え、そして多くのかたたちのサポートをいただき、叶えられた夢です。自分の信念を買けたから、今日があります。



いらっしゃって、ありがたいです。

Q 映画化されることについて

わたしは表舞台に立つのは苦手なので、これまでもお話いただいたこともあったんですがお断りしてきたんです。しかし、今回は原田さんの原作本の映画化ということもあり、南大東島のため会社のためになるのであればとお受けしました。原田さんは1つだけ映画制作会社に注文をつけたそうで、それが「質の高い役者さんを主役に」と。それで伊藤沙莉さんが主役となったようです。私は試写会で2回見ましたが、見終わった後に、「あしたも頑張ろう!」と元気をもらえる映画になっているかと思います。そしてラム酒を飲みたくなるような映画です。是非ご覧いただけると嬉しいです。

Q 沖縄大学の後輩たちにメッセージを

まだまだ道半ばではありますが・・・わたしができるので、みなさんもできると思います。自分が思っていることを口に出して、自分の想いを大切にすることを大事にしてください。挑戦するのは無駄ではないので失敗しても絶対にどうにかかりますから、挑戦してほしいです。そして人はひとりじゃないです。誰かが支えになってくれます。感謝を素直に表現することも忘れないでほしいです。

Q 今後の夢について

ニューヨークやパリにもラム酒を輸出していますが、世界中の人が知っているラム酒にしたいと思っています。小さな蔵元のラム酒『コルコル』の認知度があがること、それがこれからの夢です。

Q 現在のお仕事を教えてください

南大東島のさとうきびを使って沖縄産の無添加無着色のラム酒「コルコル」を作っているグレイス・ラムの代表をしています。県外のデパートで開催される沖縄物産展などでは、お客様にラム酒の魅力を直接お伝えしながら商品を紹介しています。(取材時には熊本県で出店中)

Q 学生時代について

高校時代はキャビンアテンダントになりたくて、沖大の短大の英語コースに進学しました。入学後、ワープロを学んでいてSEにあこがれるようになり、卒業後はコンピューター関連の仕事につきたいと、東京の会社に就職しました。ただ、仕事内容は入力業務ばかり、思い描いていた仕事ではなかったので、若くて世間知らずだった私は社長さんに「情報処理を学びたい」と嘆願したんです。社長さんは「育てる余裕はないから自分で学んで」との回答でした。東京には1年だけいて、その後沖縄へ。3度目の就職で沖縄電力の子会社へ就職しました。ちょ

Q 小説家、原田マハさんとの出会いについて

原田マハさんが小説家になる前、フリーライターのとくに、雑誌の企画でわたしの取材にいらっしやいました。まだまだ会社が軌道に乗っているとは言えない状況でしたが、そのときに「私が小説家になり、金城さんの作ったラム酒が多くの人に飲まれるようになったら、金城さんのことを小説にしてもいいですか」とお話ししてくださいました。その沖縄取材中に、原田さんは伊平屋島を訪れインスピレーションを受けて、デビュー作「カフーを待ちわびて」を書き上げ、小説家になられて、有言実行で、わたしをモデルにした小説「風のマジム」を本にされたんです。本のおかげで、ラム酒を飲んでみたい、モデルになりたいと全国に会いたいと全国から買いにきてくださるお客さまが



卒業生のお話をもうひとつ

雑誌「オモナワグラフ」で福建省を旅しながら大事にまもり継がれてきた琉球とのつながりや福建省の魅力を伝えるコラムを執筆中。福州と琉球の文化交流を積極的に行っている那覇市のメディア会社テーフアーの代表取締役川田唯依さんを紹介します。川田さんは学生時代に、130ページにおよぶ卒論を仕上げてもいました。

現在のお仕事について教えてください

2つの会社に所属しているかたちで、浦添にある貿易会社(DIRECT CHINA株式会社)では中国から

建築資材や食品などを仕入れたリ、沖縄の泡盛を輸出したり、沖縄のプロモーションを行っています。昨年、DIRECT CHINAの社長に支援をいただき、起業し、私が代表取締役を務める株式会社大話は旅行記として中国の情報発信しています。現在は2誌へのコラムの執筆や中国と沖縄を繋ぐコーディネーターの仕事もしています。

中国に興味をもったのは？

幼いころから中国に関心があった気はしますが、小学校4年生の学習発表会で演劇をやったのですが中国語通訳の役があつて、その役をやりたいと、とても熱望したのは覚えていています。

大学時代のこと教えてください

高校時代は歴史が好きだったのですが、戦後の沖縄を研究できる沖縄

大学に進学しました。歴史だけではなく、法律や経済も学び、中国語も修得していくなかで、そのころの時世で集团的自衛権について危機感をもち、卒論では日本人と沖縄の人の戦争観の違いについてテーマにしました。被害者目線だけではなく、旧日本軍についても調べるために満州事変の発端となった「柳条湖事件」の地、中国遼寧省の歴史資料館などを訪れもしました。かなりのページ数の卒論を書き上げたことは大学時代の良い思い出です。ゼミ担当教員だった我部聖先生には「このような大作を書いた学生は初めて」と言ってもらえ、嬉しく感じたのを覚えています。あまりのページ数に通常の卒論集には印刷が難しかったという記憶です。大学4年間の学びがあり、その時勉強したおかげで現在につながる目線を持つことができました。沖縄の経済の源である観光業への魅力を感じ、沖縄を世界にアピールする仕事につきたいと志すこともできました。充実した大学生活だったと思います。

これからのお仕事について

これまでも2・3か月に1度は中国に行ってお仕事をしてきましたが、コーディネーターのお仕事が縁で、今年の9月からは福建省に移住して相互の文化発信をすることをお仕事を行う予定です。新型コロナの影響、尖閣諸島の問題などもあり、中国を近いかれどす

我部聖先生(経法商学科)のコメント

川田さんは、明るく誠実な学生で、ゼミ生たちの相談に乗っている姿をおぼえています。毎回優れた発表レジュメを作成していましたので、我部ゼミでは川田さんのレジュメを見本として活用していました。卒業論文は、400字詰原稿用紙換算で約130枚の大作でした。現在も経法商の学部生の卒論は、『経法商学会誌』に掲載されていますが、当時の投稿規定では原稿用紙30枚以内でした。『法経学会誌』(当時の名称)に掲載するために規定の枚数内に収まるよう論文の結論がまとめられた終章をベースに書きなおしましたが、それでは卒業論文の良さが消えてしまうため、泣く泣く断念することとなりました。川田さんが授業を受講していた沖縄女性史家の宮城晴美先生に卒論を送ったところ、優れた論文なのでぜひ研究を続けてほしいという言葉をいただきました。新たな場でチャレンジをし続けているとのこと、これからも活躍を期待しています。



今後の夢について

スポーツ交流等のお手伝いなどでもできるいいなと思っています。私が幼いころは沖縄の子ど

く遠い国と感じている日本人も多くなっていると感じています。ニュース等での情報だけで中国を知った気がしているのではないかと感じています。友好的な交流を望んでいるひとが多いことも忘れないでほしいです。

沖縄大学の学生みなさんへひとこと

私の力の源は好奇心を忘れないことだと思っています。学生のみなさんには行ってみたい場所や、やってみたいことに挑戦してほしいです。実際に自分で体験し経験をすることが夢につながる歩だと思っています。

News & Topics

2025

6/14~15

男子バスケ部全勝優勝!! 第34回沖縄県大学バスケットボール選手権大会



本学男子バスケットボール部は6月14日、15日に開催された第34回沖縄県大学バスケットボール選手権大会において、全試合で勝利し、優勝を決めました。

2025

6/27

国連大学主催『沖縄・広島・長崎から、若者たちが語る「平和」の今と未来』に中塚さんら参加

国連大学本部（東京部）で開催された対話イベント『沖縄・広島・長崎から、若者たちが語る「平和」の今と未来』に沖縄大学から6名の学生が参加し、未来の平和について語りました。



国連憲章が採択されてから80年、戦後80年の節目に開催されたイベントには、沖縄大学、長崎大学、広島大学から23名の学生が参加、日本における戦争の記憶と向き合ってきたそれぞれの地域を代表して、改めて「平和とは何か」に向き合い、これからの国際社会における日本の役割について議論しました。

2025

6/22

軟式野球日本代表選手に！金城幸太郎さん(健スポ4年)

全日本大学軟式野球連盟国際交流事業 全日本代表選手に、福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻4年の金城幸太郎さんが選ばれました。本学から、2年連続日本代表選手が誕生しています。金城さんは、「自分の得意とする守備を活かして、チームを助けるプレーをしたいです。また海外の選手と交流し、日本の軟式野球を広めていきたいです」と選出されての喜びを語ってくれました。金城さんは12月に台湾で開催される第28回全日本大学軟式野球国際親善大会に出場します。



2025

6月

『フェアトレードとSDGs的な取り組みについて考えながらマイお箸づくり』吉村ゼミ

こども文化学科吉村壮明先生の3年次ゼミでは、衣食住の「食」に直結する箸を通して、環境問題やSDGs、フェアトレードについて考える機会にしました。

日本産の檜材からマイ箸を作り、完成したマイ箸を持参して食事会も楽しみました。



2025

6/3

『「SDGs、食生活、栄養と健康」をテーマに取り組む』下地ゼミ

管理栄養学科下地みさ子先生の専門演習ゼミ(4年次)では、2022年度からオナリアンさんへ、新商品のプレゼン等を行って2024年度からは廃棄予定の油揚げをリメイクした「油揚げきな粉味」が商品化され店頭販売されています。この日はオナリアン吉里時浩社長に説明をいただきながら工場見学を行いました。

今年度も下地ゼミの学生6名は、「SDGs、食生活、栄養と健康」をテーマに卒論研究を行って、栄養バランスを考えたレシピ考案やモズグミを開発中で、「食を通して、地域に貢献」を目標に継続して研究していきます。



2025

5/15

『楽しく&熱く！笑顔いっぱい』2025年度新入生歓迎スポーツ大会

今年の競技はソフトドッチボールで、ゼミ対抗で競い合い、職員チームを入れたと46チームが参加し行われました。会場では、エンジンを組み気合を入れるチームや試合ごとに作戦を練って挑むチームもあり、飛んで跳ねて、投げて逃げてと、学生たちの笑顔があふれていました。

ソフトドッチボール大会 結果

1位 鈴木ゼミA(問題発見演習I)
2位 宮本ゼミ(専門演習C)
3位 中山ゼミ4年



2025

6/5

『那覇観光PR 魅力ある市場マップ！作成中』末吉ゼミ

国際コミュニケーション学科末吉綾乃先生の3・4年ゼミでは、2022年度より那覇の魅力発信事業に取り組んでいて、英語を活かして、動画制作やSNS発信、マップ作成を行っています。現在は、市場通りのマップを作成中で、外国のかたのニーズ調査として、日本語学校(国際言語文化センター附属日本語学校(ICLC Okinawa Japanese Language School))の学生さんにも参加いただき、交流しながら聞き取り調査を行いました。



2025

6/12

学生たちのワクワクが集まった！琉球弧研究支援プロジェクトが始まります！

地域研究所主催の「2025年度 琉球弧研究支援プロジェクトキックオフミーティング」が開催され、今年度研究支援を受ける個人やグループが集い、それぞれの研究テーマを発表しました。

琉球弧研究支援プロジェクトは、沖縄本島・離島・奄美などの琉球弧をフィールドに、学部生や大学院生が行う研究・実践活動を支援する取り組みです。旅費や図書資料費などの研究助成費を支給し、学生のチャレンジを後押しする沖縄大学ならではの取り組みです。2008年の開始以来、18回目を迎えた今年度は個人研究で3件、グループ研究で7件の研究が採択されました。



2024年度決算について

※千円未満四捨五入

資金収支計算書

収入の部				支出の部			
(単位 千円)				(単位 千円)			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,063,000	2,040,632	22,367	人件費支出	1,509,269	1,487,998	21,270
手数料収入	30,535	26,825	3,709	教育研究経費支出	1,010,836	911,791	99,045
寄付金収入	28,328	26,007	2,320	管理経費支出	112,462	100,961	11,500
補助金収入	664,234	597,405	66,828	借入金等利息支出	8,117	7,240	876
資産売却収入	258	85	172	借入金等返済支出	83,360	83,360	0
付随事業・収益事業収入	1,997	1,279	717	施設関係支出	30,139	15,319	14,820
受取利息・配当金収入	1,596	2,211	△ 615	設備関係支出	148,377	126,987	21,389
雑収入	64,271	66,717	△ 2,446	資産運用支出	86,000	87,001	△ 1,001
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	45,248	75,262	△ 30,013
前受金収入	907,820	870,044	37,775	予備費	3,891	-	3,891
その他の収入	5,769	15,642	△ 9,872	資金支出調整勘定	△ 45,235	△ 68,563	23,327
資金収入調整勘定	△ 929,736	△ 957,824	28,088	翌年度繰越支払資金	2,626,098	2,642,160	△ 16,061
前年度繰越支払資金	2,780,494	2,780,494		支出の部合計	5,618,566	5,469,520	149,046
収入の部合計	5,618,566	5,469,520	149,046				

貸借対照表

資産の部				負債の部・純資産の部			
(単位 千円)				(単位 千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,652,161	5,624,578	27,583	固定負債	1,044,917	1,123,092	△ 78,175
有形固定資産	4,814,655	4,867,885	△ 53,230	流動負債	1,057,012	1,076,067	△ 19,055
特定資産	771,729	684,867	86,861	負債の部合計	2,101,929	2,199,159	△ 97,230
その他の固定資産	65,777	71,825	△ 6,047	基本金	7,732,544	7,755,009	△ 22,465
流動資産	2,703,016	2,794,878	△ 91,861	繰越収支差額	△ 1,479,294	△ 1,534,713	55,418
資産の部合計	8,355,178	8,419,456	△ 64,277	純資産の部合計	6,253,249	6,220,296	32,952
				負債及び純資産の部合計	8,355,178	8,419,456	△ 64,277



2025年度予算について

資金収支予算書

収入の部			
(単位 千円)			
科目	本年度予算	前年度予算	増・減
学生生徒等納付金収入	2,086,413	2,063,000	23,413
手数料収入	29,094	30,535	△ 1,441
寄付金収入	34,500	28,328	6,172
補助金収入	645,963	664,234	△ 18,271
資産売却収入	950	258	692
付随事業・収益事業収入	666	1,997	△ 1,331
受取利息・配当金収入	4,118	1,596	2,522
雑収入	48,539	64,271	△ 15,732
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	907,199	907,820	△ 621
その他の収入	22,552	5,769	16,782
資金収入調整勘定	△ 938,343	△ 929,736	△ 8,607
前年度繰越支払資金	2,626,098	2,780,494	△ 154,395
収入の部合計	5,467,749	5,618,566	△ 150,817

支出の部			
(単位 千円)			
科目	本年度予算	前年度予算	増・減
人件費支出	1,479,055	1,509,269	△ 30,214
教育研究経費支出	1,029,785	1,007,739	22,046
管理経費支出	109,233	112,462	△ 3,229
借入金等利息支出	6,205	8,117	△ 1,912
借入金等返済支出	83,360	83,360	0
施設関係支出	33,104	28,030	5,074
設備関係支出	75,129	142,477	△ 67,348
資産運用支出	86,000	86,000	0
その他の支出	32,320	45,248	△ 12,928
予備費	17,000	15,000	2,000
資金支出調整勘定	△ 18,450	△ 45,235	26,785
翌年度繰越支払資金	2,535,008	2,626,098	△ 91,090
支出の部合計	5,467,749	5,618,566	△ 150,817

経常的な収支バランス

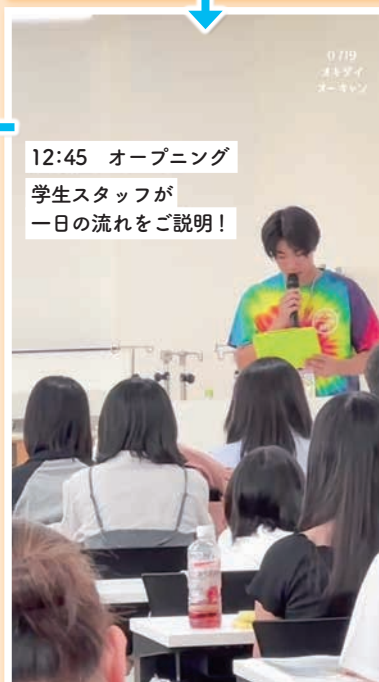
臨時的な収支バランス

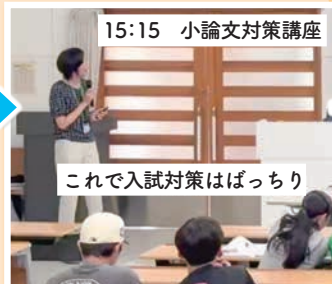
事業活動収支予算書

事業活動収支予算書					(単位 千円)
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度予算	増・減
		学生生徒等納付金	2,086,413	2,063,000	23,413
		手数料	29,094	30,535	△ 1,441
		寄付金	34,500	28,328	6,172
		経常費等補助金	645,963	651,557	△ 5,594
		付随事業収入	666	1,997	△ 1,331
		雑収入	48,539	64,271	△ 15,732
		教育活動収入計	2,845,175	2,839,688	5,487
	事業活動支出の部	人件費	1,485,968	1,518,441	△ 32,473
		教育研究経費	1,201,795	1,178,865	22,929
管理経費		115,783	119,828	△ 4,045	
教育活動支出計		2,803,546	2,817,135	△ 13,589	
	教育活動収支差額	41,629	22,552	19,076	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度予算	増・減
		受取利息・配当金	4,118	1,596	2,522
	教育活動外収入計	4,118	1,596	2,522	
	事業活動支出の部	借入金等利息	6,205	8,117	△ 1,912
		教育活動外支出計	6,205	8,117	△ 1,912
		教育活動外収支差額	△ 2,087	△ 6,521	4,434
	経常収支差額	39,542	16,031	23,510	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度予算	増・減
		その他の特別収入	5,600	15,915	△ 10,315
	特別収入計	5,600	15,915	△ 10,315	
	事業活動支出の部	資産処分差額	2,000	3,000	△ 1,000
		特別支出計	2,000	3,000	△ 1,000
		特別収支差額	3,600	12,915	△ 9,315
		(予備費)	17,000	15,000	2,000
		基本金組入前当年度収支差額	26,142	13,946	12,195
		基本金組入額合計	△ 128,122	△ 214,110	85,988
		当年度収支差額	△ 101,980	△ 200,163	98,183
	前年度繰越収支差額	△ 1,734,876	△ 1,534,713	△ 200,162	
	基本金取崩額	0	0	0	
	翌年度繰越収支差額	△ 1,836,856	△ 1,734,876	△ 101,979	
(参考)					
事業活動収入計		2,854,893	2,857,199	△ 2,306	
事業活動支出計		2,828,751	2,843,252	△ 14,501	

オープンキャンパス レポート!

6月28日(土)、7月19日(土)にオープンキャンパスを開催、多くの高校生や保護者に来場いただきました。オープンキャンパスでは、学部学科ごとに体験型講義や2026年度入試についての説明、小論文対策講座、志望理由書等の書き方講座などのプログラムを実施しました。各学科では工夫を凝らした講義を行い(18世紀19世紀の工場体験から経済革命について考える講義や模擬裁判劇、留学生が日本語のルールを説明、ビジネスからみるスポーツの価値、小学校の先生になるための講義、野菜について学ぶ調理学について等)体験した高校生からは、「大学での学びのイメージがつかめました」や、「学生スタッフのみなさんが優しくて、沖縄大学の雰囲気の良さを感じました」との感想の声が届きました。





第2部 ニュース
午後6時15分-6時55分



QAB タ方ニュース、毎週火曜日の企画『ビジネスキャッチャー』内で沖縄大学の先生たちが
それぞれの専門分野において、解説しています。沖縄大学教師陣の研究力を是非ご覧ください！



「事業継承」について経法商学科
豊川明佳先生が解説！ 7/15 放送



「トランプ関税」について経法商学科
岩崎一郎先生が解説！ 7/8 放送



「エンゲル係数、食費」について管理栄養学科
喜屋武ゆりか先生が解説！ 7/22 放送

■ 2026 年度 沖縄大学入試日程 学部

	願書受付期間 (必着)	入試日
総合型選抜 (10月)	2025年 9月9日(火)～9月18日(木)	2025年 10月18日(土)～10月19日(日)
総合型選抜 (12月)	2025年 12月1日(月)～12月5日(金)	2025年 12月13日(土)～12月14日(日)

	願書受付期間 (必着)	入試日
学校推薦型選抜	2025年 11月5日(水)～11月11日(火)	2025年 11月22日(土)～11月23日(日)
一般選抜 (前期)	2026年 1月13日(火)～1月21日(水)	2026年 2月5日(木)～2月7日(土)
大学入学共通 テスト利用選抜(前期)		2026年 1月17日(土)～1月18日(日)
一般選抜 (中期)	2026年 2月9日(月)～2月17日(火)	2026年 2月27日(金)
大学入学共通 テスト利用選抜(中期)		2026年 1月17日(土)～1月18日(日)
一般選抜 (後期)	2026年 2月25日(水)～3月3日(火)	2026年 3月11日(水)
大学入学共通 テスト利用選抜(後期)		2026年 1月17日(土)～1月18日(日)

■ 2026 年度 沖縄大学入試日程 大学院

	願書受付期間 (必着)	入試日
一般入試 (10月)	2025年 9月1日(月)～9月9日(火)	2025年 10月4日(土)
一般入試 (2月)	2026年 1月19日(月)～1月26日(月)	2026年 2月14日(土)

	エントリー期間	一次面談日	二次審査(面談)
AO入試(10月) (社会人特別)	2025年 9月1日(月)～9月9日(火)	2025年 10月4日(土)～ 10月5日(日)	2025年 10月25日(土)
AO入試(2月) (社会人特別)	2026年 1月19日(月)～1月26日(月)	2026年 1月31日(土)	2026年 2月21日(土)

■ 2026 年度 入試 募集定員

入試種別 学科・専攻	総合型選抜 (10月)	学校推薦型		総合型選抜 (12月)	前 期		中 期		後 期		合 計
		専門・総合 学科特別			一般	共通テスト 利用	一般	共通テスト 利用	一般	共通テスト 利用	
経法商	55	60	5	25	24	28	10	7	3	3	220
国際コミュニケーション	30	20	2	5	10	5	2	2	2	2	80
福祉文化(社会福祉専攻)	25	18	2	10	4	3	3	2	2	1	70
福祉文化(健康スポーツ福祉専攻)	13	20		5	7	3		2			50
こども文化	15	15			10	6	2	2			50
管理栄養	30	30	2	5	5	3	2	3			80
合 計	168	163	11	50	60	48	19	18	7	6	550

■ 沖縄大学保護者懇談会のご案内

保護者懇談会では、学生の学業や学生生活などについて、教職員と保護者の個別面談を実施し、保護者の皆様と連携を密にしながら、きめ細かな学生支援を行って参りたいと考えております。

会への参加を希望する方は、学生支援課へ直接お電話又はメールでお問い合わせください。(尚、台風等の影響で中止となる場合もあります。その際は本学ホームページでお知らせいたしますのでご確認ください。)

[日程及び会場一覧はこちら→](#)

■ 寄附をご希望のかた

☆インターネットからの申込み・金融機関での振込によるご寄附

本学ホームページ (<http://www.okinawa-u.ac.jp/>) をご参照ください。
ホームページ内の寄附申込みサイトからお申し込みください。クレジットカード決済・コンビニ決済・Pay-easy 決済で、ご寄附頂けます。(株式会社エフレジの F-REGI 寄附支払いサイトでのお手続きとなります。)

問い合わせ先 メール: keiei@okinawa-u.ac.jp FAX: 098-832-0083
〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場 555 番地 沖縄大学経営企画室 宛

2026年度募集定員の変更があります。
福祉文化学科社会福祉専攻が75名から70名に変更、同学科健康スポーツ福祉専攻が45名から50名に変更となっています。また健康スポーツ福祉専攻では総合型選抜(12月)はプレゼン型になります。
管理栄養学科は一般選抜(中期)の入試が追加されました。

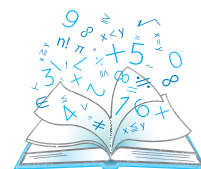
沖縄大学大学院・現代沖縄研究科には「地域経営専攻」と「沖縄・東アジア地域研究専攻」の2専攻があります。
昼夜・土曜開講制で原則として平日の6～7校時と土曜日の3～6校時に開講されます。2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について、長期履修生(3年間)としての入学を認める長期履修制度もあります。

学部

大学院

2026年度 学生募集

お問い合わせ先 入試広報室(電話098-832-13270)



大学院

現代沖縄研究科

・地域経営専攻 …… 5名
・沖縄・東アジア地域研究専攻 …… 5名

日程及び会場一覧

<久米島会場> 8月28日(木) 【EN Resort イービービーチホテル】
18:00～19:00 久米島町字謝名堂 548 (☎098-985-7111)

<宮古会場> 9月1日(月) 【ホテルアトールエメラルド宮古島】
18:00～19:00 平良市宇下里 108-7 (☎0980-73-9800)

<八重山会場> 9月2日(火) 【アートホテル石垣島】
18:00～19:00 石垣市大川 559 (☎0980-83-3311)

<北部会場> 9月9日(火) 【ホテルゆがふいんおきなわ】
18:00～19:00 名護市宇宮里 453-1 (☎0980-53-0031)

<中南部会場> 9月13日(土) 【沖縄大学】
13:00～16:30 那覇市宇国場 555 (☎098-832-7182)

お問い合わせは
こちらから

沖縄大学 学生支援課

TEL: 098-832-7182 (受付時間 平日 9:00～17:00)
Mail: gakuseika@okinawa-u.ac.jp